

令和５年度病虫害発生予察予報第１号（令和５年４月）

令和５年４月３日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)、やや多(中西)</u> <u>多(西)、やや多(中央、中西)</u> <u>多(中央、西)、やや多(中西)</u> <u>多(中西)、やや多(中央、西)</u> <u>多(中央)</u> 、少(中西、西) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西) <u>多(中央、西)、やや多(中西)</u>
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中央)、やや多(東)</u> 、少(西) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(東) <u>やや多(西)</u> 、平年並(東、中央) <u>やや多(中央)</u> 、少(東、西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)、やや多(中央)</u> 、やや少(中西) <u>多(東、中西)、やや多(中央)</u> <u>多(中西)、やや多(中央)</u> 、平年並(東) <u>多(東、中西)</u> 、少(中央) <u>多(中央)</u> 、やや少(東)、少(中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	平年並(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
水稻	スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u>

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)の町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台 3月30日発表)

4月1日から4月30日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並、少ない確率とも40%です。日照時間は、平年並、多い確率とも40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並、高い確率とも40%です。3～4週目は、高い確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	20	30	50	
		降水量	40		40	20
		日照時間	20	40		40

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		20		40	40
3～4 週目		30		30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：4月1日(土)～4月30日(日)

1週目：4月1日(土)～4月7日(金)

2週目：4月8日(土)～4月14日(金)

3～4週目：4月15日(土)～4月28日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

(1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部と西部で平年よりも高く、中西部でやや高かった。

(2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや多く、中央部、中西部で平年並であった。発病程度は、中央部、西部で平年より高く、中西部で平年並であった。
- (2) 4月の気温は高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) つる枯病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりもやや多く、中西部では平年並であった。発病程度は、西部で平年よりも高く、中央部、中西部で平年並であった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 発病した茎葉等は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりもやや多く、中央部、西部で平年並であった。発病程度は西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 各地域とも既発ほ場を中心に新たな発生が確認されている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を、低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却するなどの処分を行う。

5) 退緑黄化病

予 想 発生量：多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されていることから、4月以降も既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を、低密度時に徹底して実施するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう注意する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。発生程度は中西部で平年並、中央部、西部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 青色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。既発ほ場では特に防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成殺虫剤以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 黄色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(東部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、東部でやや多く、中央部で少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部で平年並、西部で低かった。

- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 発病した果実はほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、少(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多く、東部で平年並であった。発病程度は中央部で平年並、東部で低かった。
- (2) 4月の気温は高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、平年並(東部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部でやや少なかった。発病程度は西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：やや多(西部)、平年並(東部、中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年並、東部、中央部ではやや少なかった。発病程度は、西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、発病葉

は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多く、東部では少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部で低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、発生は横ばいで推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成殺虫剤以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部でやや少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部で平年並、東部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、発生は横ばいで推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりやや多く、中央部で平年並、中西部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、中西部でやや高く、東部で平年並であった。
- (2) 4月の気温は高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(東部、中西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発病程度は東部、中西部で平年よりも高く、中央

部で平年並であった。

- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黒枯病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、平年並(東部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年より多く、中央部で平年並、東部でやや少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、東部で平年並、中西部では低かった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)モザイク病

予 想 発生量：多(東部、中西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県東部、中西部で発生が確認された。発生面積は、東部、中西部で平年より多く、発生程度は、中西部で高く、東部で平年並であった。
- (2) 媒介虫であるアブラムシ類の発生は、県下全域で栽培初期から継続して確認されており、トラップ調査でも東部、中西部で平年より多くの発生が確認されている。また、気温が上昇しアブラムシ類の活動が活発になることから発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるアブラムシ類の防除を徹底する。また、発病株はほ場外に持ち出し、埋却するなどして処分する。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県東部、中央部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年より多く、東部でやや少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカス

ミカメ等の天敵が定着しているため、発生は横ばいで推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成殺虫剤以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中西部で平年よりも高く、東部、中央部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、発生は横ばいで推移するものと考えられる

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積はやや少なく、発病程度は低かった。
- (2) 耐病性品種が普及しているものの、着果負担等により草勢が低下すると本病の発生が助長されることが考えられる。
- (3) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すずかび病

予 想 発生量：多(中央)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積は平年よりも多く、発病程度は高かった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度はやや低かった。
- (2) 4月は晴れの日が多く、気温は高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積は平年並、発病程度は高かった。
- (2) 例年、低温期にはほとんど発生が見られないが、既発ほ場を中心に新たな発病株が確認されている。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生は、低密度ながら平年よりも多くのほ場で確認されている。
- (3) 4月の気温は平年よりも高めと予想されており、潜在感染株で発病が見られ始めること、また本病の媒介虫であるタバココナジラミの活動が活発になると見込まれることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を、低密度時に徹底して実施するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう注意する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積は平年よりも多く、発生程度はやや低かった。
- (2) 4月の気温は平年よりも高めと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 黄色粘着トラップの設置等により、本虫の早期発見、早期防除に努める。

5 水稲（早期稲）

1) スクミリンゴガイ

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 12月下旬および1月下旬の気温が平年に比べ低かったことから、越冬貝の死亡率は平年と比べ高かったと考えられるが、昨年の発生面積は県下全域で平年よりも多～やや多く、発生程度もやや高かったことから、発生はやや多くなると予想される。

- (2) 4月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
- (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)